

原小学校コミュニティ・スクールだより



～やさしく 強く やりぬく子～発行日：令和6年 11 月 21 日〈NO.6〉

3年生が、アグリアライアンス(脇農園)で落花生の収穫体験をしました

3年生の総合的な学習の時間「原のすてき発見！」では、原の自然環境に合った野菜作りをされている小関の脇農園さんに毎年お世話になっています。10月21日(月)には、バスと徒歩で脇農園を訪れ、落花生の収穫体験をしました。当日は好天に恵まれ、収穫にもちょうどいい気温で、気持ちよく作業ができました。子ども達は粒の大きいジャンボ落花生に驚きながら、一つ一つをもぎ取ってかごに入れる作業を頑張りました。最後にお土産の落花生をいただき、とても満足そうでした。



脇さん、教室へ(10/24)



10月24日(木)2校時には、脇さんに教室に来ていただき、脇農園で一番大切にしておられる「土づくり」についての話を聞きました。

元気な土とは、栄養と水分と酸素を含むカステラのような土だそうです。また、土づくりはカンボジアやベトナム等海外の人にも教えてもらえるそうです。



4年生が原の防災について学んでいます



10月23日(水)午前中、4年生は総合的な学習の時間の「防災」学習と賀茂地方森林組合主催の「緑の教室」を兼ねてフィールドワークを行いました。1校時は、賀茂地方森林組合の児玉さんと北岡防災士が教室に来て下さり、森林全般について学んだり、平成30年の西日本豪雨災害の時の原地域の写真を見たりしました。

2校時からマイクロバス2台に分乗して、北岡防災士と平坂防災士の話を聞きながら、平成30年に災害のあった大竹地区に向かいました。大竹地区では完成した砂防ダムを離れた所から見学したり、車窓から植林中の山を眺めたりしながら、当時の被害の様子を聞きしました。



その後、小倉神社まで移動し、神社そばの小倉大谷(H30の災害当時、土砂が流れ落ちて深い谷となった所)を見学しました。近くには土砂が運んだ大きな岩が残っている場所もあって、4年生は自然の力の凄まじさを実感していました。

また、同行くださっていた広島県環境保健協会の和田さんが、広島県の山林の土(花崗岩が風化したもの、真砂土)と西条盆地の水田の土との比較を体験させていただきました。この実験により、真砂土には水がしみ込みやすい特徴があることがわかりました。さらに、付近の森林の土がどのような特徴をもっているか、赤松だけでなく他にはどのような木や植物が生えているか等の「森の学習」も進めてくださり、現地に行かないとなかなかできない貴重な体験をすることができました。